

かがやき

令和6年 2月 16日(金)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき学級
学級通信 NO. 15

自分の状態(感覚)を知っていくこと

子供たちが、授業で先生や友達の話聞き、ノートを書いたり発言したりして参加していくことには多くの集中力を要します(かがやき学級通信11号参照)。しかし、自分の「状態」についての認識がまだまだ実感として理解できないことも多くあり、自分の「状態」に気が付かないまま授業に参加し続けるために子供たちは、自分なりの「感覚刺激」を思いつきます(大人も無意識に覚醒を維持するためにしていることもあると思います)。例えば、椅子の背もたれに体重をかけ、二本の足でブラブラとバランスをとる「いすぶらぶら」があります。倒れるか倒れないかの微妙なバランス感で刺激を入れ、自分の覚醒を保ちます。ただ、当然のことながらバランスを崩して倒れることもあるので危険で目立ってしまう方法です。また、身近なところでは「ペン回し」「はなほじり」「髪いじり」「指しゃぶり」多様な方法が生み出されてきました。そしてやはり学校生活の多くの時間を座学で続けていく中では単純に「動きたい」という感覚が強くなることもあるようです。かがやきの授業では「自分の感覚を知っていく」という指導の中でこの「状態」を個々の理解に応じて指導しています。自分がどんな「状態」のときにどんな行動を取っているか、子供たちから聞き取った自分の状態をイラストにして番号を振って提示します。「先生! 4番 8番 9番!」と伝えてくれる子もいます。イラストと自分の「状態」を重ねて、必要に応じて伝える。この流れを通して自分の「状態」を少しずつ客観的に捉えられるようにしていきます。ただ、気持ちや感覚はあくまでその人のものなので、客観的に捉える「ヒント」として柔軟に使っていきたいと思っています。

「注意」「集中」という課題に対しての対処療法は周囲に目立たずに、自分に簡単な「感覚刺激」(手の平や指先をもむ・耳たぶをもむ・ももや、ふくらはぎをもむ)を入れることも有効と伝えてはいます。ただ、こうした個人の「注意・集中」を維持する工夫に加え、やはり子供達に伝える情報をより「具体的」「簡潔」にしていくという努力は常に意識していかなければならないと感じます。「静かに聞きなさい!」という状態を少なくする「伝達していく際の工夫」には様々なものがあるのでさらにいろんな授業の中で工夫が進むように校内でも意識を共有していきたいと思っています。

かがやき後期保護者会のお知らせ

3月5日(火) 15:30~かがやき教室で
保護者会を予定しております。
ご参加いただける保護者の方は、以下のフォームに出欠連絡をお願いいたします。



←イラストカード(一部)